

事業名：児童館地域交流推進事業

子ども家庭課 児童母子係

政策	03 安心を感じる保健・医療・福祉の充実								
施策	03 子育て環境の充実								
基本事業	03 学齢期児童への支援								
開始年度	昭和46年度	終了年度	—	実施計画 事業認定	対象	会計区分	一般会計	補助金	

事務事業の目的と成果	
対象（誰、何に対して事業を行うのか）	
市内小中学生および高校生	
手段（事務事業の内容、やり方）	
地域の大人との指導・交流を通して、遊び、行事、イベントなどの活動を実施する。	
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）	
児童の協調性、自主性、可能性を引き出すことで、放課後における児童の健全育成が図られる。	

指標・事業費の推移						
区分		単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度当初
対象指標1	市内小中学生および高校生の数（5月1日）	人	15,217	14,908	14,541	14,541
対象指標2						
活動指標1	年間開館日数	日	295	293	294	293
活動指標2	延べイベントメニュー数	件	141	193	239	210
成果指標1	大人を含めた児童館利用人数	人	47,460	42,852	43,917	45,000
成果指標2	行事・イベントに参加するボランティアの人数	人	70	71	74	70
事業費(A)		千円	47,117	47,440	48,027	51,719
正職員人件費(B)		千円	4,013	4,008	4,688	3,912
総事業費(A+B)		千円	51,130	51,448	52,715	55,631

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
25年度	児童センター（市内7カ所）の開設 開設日 月曜日から土曜日（祝日を除く） 開設時間 午前9時～午後5時（土曜日及び学校休業日） 午前11時～午後5時（土曜日及び学校休業日以外）	児童厚生員の報酬 37,156千円 児童センターの電気料、水道料等の光熱水費 2,949千円 児童センターの警備、清掃等に係る委託料 3,521千円 児童センターの修繕費 632千円

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
事業を取り巻く環境変化	
江別市の児童センターは、昭和46年に東光児童センターが開設されたのを最初として、児童福祉法の主旨に沿って、児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的として、現在まで7館が設置されている。人口の増加と住宅地の拡大により、児童センターの新設を要望する住区がある。一方で、大規模改修が必要な老朽化した児童センターもある。	

平成25年度の実績による担当課の評価（平成26年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？	
妥当である 妥当性が低い	理由 根拠 児童福祉法に基づき、児童が心身ともに健やかに育成される場の提供として必要である。
(2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？	
貢献度大きい 貢献度ふつう 貢献度小さい 基礎的事務事業	理由 根拠 地域の児童健全育成の拠点として重要な役割を担っている。
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？	
上がっている どちらかといえば上がっている 上がらない	理由 根拠 児童センター数は維持され、放課後や土曜日・長期学校休業期間における児童の居場所として利用されている。
(4) 成果が向上する余地（可能性）がありますか？その理由は何ですか？	
成果向上余地 大 成果向上余地 中 成果向上余地 小・なし	理由 根拠 児童生徒が生活をする家庭や地域、社会状況の変化は発達に大きな影響を与える。核家族化、少子化が進む中、地域の方々の協力を得ながら行う遊びや学びの活動を通じて仲間づくりをする児童の健全育成の場として果たす役割は大きく、自治会等の地域住民からの協力をより得られることができれば、一層成果が向上する。
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算+所要時間）を削減する方法はありませんか？	
ある なし	理由 根拠 第二種非常勤職員のみで対応しており、週29時間の勤務時間内での対応が難しい状況にある。また、平成21年度より児童クラブでの有料化を実施している。